

CONTENTS

企画展 万病に挑む・在村医たちの足跡を追って	2
第67回文化講演会報告	3
友の会のページ	4
資料館展示品から	5
NEWS FILE	6・7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

洋学 資料館

No. 7
June, 2012

洋学資料館の前庭です。3月に解説板と、旧出雲街道沿いに看板が設置されました。4月には津山ロータリークラブからのご寄贈で、ガス灯が2基設置されました。1基は図書室の前、もう1基は和蘭堂の前にあります。日没後には、オレンジ色の光が周囲をやわらかく照らしています。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



第67回 文化講演会

「津山と静岡をむすぶ維新後の旧幕臣」

講師 国立歴史民俗博物館総合研究大学院大学教授
樋口雄彦先生

ゴールデンウィークを間近に控えた4月22日の日曜日、第67回の文化講演会を開催いたしました。講師にお迎えしたのは国立歴史民俗博物館総合研究大学院大学教授の樋口雄彦先生です。

先生は静岡県のお生まれで、沼津市明治史料館の学芸員を勤められた後、国立歴史民俗博物館に移られました。ご専門は日本近代史で、「明治期の社会・文化と旧幕臣の動向」を研究テーマにされています。今回は、明治維新时期に静岡藩と関係のあった津山関連の人物を紹介していただきました。

まず最初に紹介されたのは、津山藩第8代藩主であり、大政奉還後は田安亀之助（徳川家達）の後見人として徳川宗家を支えた松平斉民（確堂）の書状です。宛先は勝海舟で、明治元年9月14日の日付があります。この中で斉民は、戊辰戦争や前月に起こった榎本武揚らの脱走事件について「嘆すべく憐れむべき事」と述べていました。勝とともに確堂が新政府と徳川家とのパイプ役として、事態を憂慮していたことがうかがえます。

そのほかにも、津田真道や菊池大麓、箕作麟祥ら津山ゆかりの洋学者たちが静岡で学問所や兵学校の教師になったことをエピソードも交えて説明されました。また、静岡藩士（旧幕臣）の中でも有能な人材は諸藩に貸し出され、津山藩でも藩士として取り立てたことなど、津山と維新後の静岡藩とに密接な関係があったことを示す資料を、プロジェクターを使って解説されました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、80人近くの方に参加いただき、皆さんメモを取るなど、興味深い様子で熱心に聴いておられました。

企画展
万病に挑む

― 在村医たちの足跡を追って ―

江戸時代、医師は地域に密着して、自分が暮らす地域の病人は、自分の専門ではなくても受け入れて、治療にあたっていました。

そのような「在村医」と呼ばれる医師が、かつては各地にいましたが、歳月の経過とともに忘れ去られてしまう人物も少なくありません。資料館では開館以来30年以上にわたって、美作地域の在村医の調査・研究を続け、史跡や関係資料を確認してきました。

本展では、これまでの調査で少しずつ明らかになってきた在村医たちの中から、服部秀民（上野田）、江見敬輔（吉ヶ原）、中島大次郎（高野本郷）、山本鼎（福本）、高坂大造（淵尾）、山本笠山（井口）、横山廉造（美甘）、水田敬道（羽出西谷）、石田春深（奥津）、岸岡宗友（円宗寺）、岩本徳太郎（里公文）、岸本東民（押入）、高山俊斎（横野）の13名を紹介しました。

観覧された方々は、地域医療に尽くした医師たちの生き方に思いをはせながら、資料や史跡の写真にじっくりと見入っておられました。



▲横山廉造の蘭引（真庭市所蔵）と石田家伝来の人体図



▲水田敬道ゆかりの白沢図（森永欣弥氏所蔵）



名物の葛を作る大きな水槽の前でガイドさんのご説明に聞き入りました。

第32回研修バス旅行報告 大和路の薬めぐり旅

高取町くすり資料館 →
高松塚古墳壁画館・古墳外周 →
竹林院群芳園で昼食 → 金峯山寺 →
宇陀松山伝統的建造物群保存地区散策
(大宇陀歴史文化館薬の館、森野旧薬園など)

梅雨入りとはいえ好天に恵まれた6月10日(日)、32回目となる研修バス旅行を実施しました。今回は、奈良県に残る薬関係の史跡や資料館を訪ねました。
奈良は、古代に都がおかれてから、薬草の栽培や薬の生産が発達しました。中世には修験道の行者などの手で奈良の薬が各地へ伝えられ、江戸時代になると行商によってさらに全国へと広がったといえます。
最初に訪れた高取町も、製薬業で栄えた薬の町です。大正時代の呉服商の蔵を改装して作られた高取町くすり資料館には、行商で使うこうりや置き箱、置き薬の帳面などが所せましと展示され、参加された皆さんは興味深く見入っていました。

続いて高松塚古墳と壁画館を見学し、古代のロマンに触れた後は、吉野山の竹林院で、お昼に豊臣秀吉の花見にちなんだという「太閤椀」をいただきました。食後は薬桜を楽しみながら、歩いて金峯山寺へ。国宝・蔵王堂の威容には圧倒されるばかりでした。参道の途中には、修験道の創始者・役行者が作ったという薬「陀羅尼助丸」のお店もありました。
最後の見学地、宇陀市の松



吉野の金峯山寺・蔵王堂

各見学地でしっかり歩き、帰りのバスの中は心地よい充実感と、一日の思い出話でいっぱいでした。



森野吉野葛本舗で記念撮影

資料館展示品から

ツボはドコ？ けいらくにんぎょう 『経絡人形』



▲洋学資料館第三展示室で展示中です。

江戸後期、地域の医療を支えた医師たちはレベル差があったものの、蘭漢折衷で診療をしていました。資料館に展示中の「経絡人形」はそんな医家に伝わったものです。この資料があった山田家は今の美作市海田で代々医師を務めていました。6代目の淳造(のち純造)は、備前藩家老日置家の典医であった難波抱節や、大坂にあった華岡流の分塾・合水堂で医学を修業し、幕末から、明治・大正にかけて活躍しました。

「経絡人形」の経絡とは、漢方医学では、人体の中の「気」の通り道と考えられていました。この経絡上にあつて刺激を与える重要なポイントが経穴で、いわゆるツボと呼ばれるものです。これら経絡と経穴の位置を人形に標して、鍼灸の学習に用いられたのが向かって左側の経絡人形です。経絡人形の原型は中国で発明され、日本へは室町時代に伝わりました。江戸初期の鍼治療の普及に伴い、日本独自の経絡人形が作られるようになり、医師たちに広く用いられました。それが左側の人形です。
では、右側の人形はなんでしょう。この人形をよく見ると「頭大骨圍二尺六寸」や

「胸圍四尺五寸」等と記されています。ここに標されている寸法は骨度法といって、すべての人の身長を一律に七尺五寸とした場合の経絡や経穴の基準になる寸法を算定したもので、いわゆる一寸(約3cm)とは別のもので、この方法を用いることによって、身体の大小にかかわらず、正確に経穴を刺激することができるようになりました。明治になって西洋医学が主流となった頃、対抗するために骨度法が広まったといわれています。

文：学芸員 乾康二



◀説明される可児先生

▼説明に聞き入る参加者の皆さん

6月14日（木）、資料館前庭の薬草の小径で、薬草の説明会を開催しました。

講師にお迎えしたのは、かに薬局薬剤師の可児敬志先生です。普段からボランティアでハーブの手入れをしてくださっているハーバルヤマの皆さんも協力してくださいました。

当日は梅雨の晴れ間の好天で、平日でしたが40名余りの方が参加

初夏のワークショップ「薬草説明会」を開催

されました。

薬草の小径には、ハーブのほか漢方薬の原料となる植物も植えられています。今回はそうした薬草の効能などを、ホワイトボードを使いながら詳しくお話しくださりました。

参加された方は、実際に植物を手にとり匂いを確かめたり、メモを取ったりしながら、先生のお話熱心に聞き入っていました。



GENPOプロジェクトはじまる

GENPOプロジェクトによる津山市内小学校6年生の資料館見学も、今年で3年目となりました。5月29日（火）には、今年度1校目となる院庄小学校が来館しました。

昨年度からは、子供向けのパンフレットを配布し、来館した子供達からも「わかりやすい」「可愛い」と喜んでもらっています。今年も子供たちが楽しく学べるよう、資料館スタッフも全力でサポートしたいと思います。



▲点灯の瞬間（上）
左から田村芳倫教育長、下山館長、建築家の富田玲子先生、津山ロータリークラブ会長・山本俊彦さん、浮田芳典さん、苅田善嗣さん



▶ガス灯を見上げる津山ロータリークラブの皆さん

津山ロータリークラブより、認証55周年記念事業の一環として、洋学資料館にガス灯2基と子供向けパンフレット5000部が寄贈され、4月22日（日）に行われた記念式典で目録が贈呈されました。

贈呈式に先立って、4月7日（土）にはガス灯の点灯式が行われました。夕闇がせまる中行われた式では、山本会長や田村教育長、津山を訪問中だった建築家の富田玲子先生らが点灯スイッチを押し、ガス灯に明かりが灯ると、周囲から自然と拍手が起りました。

「ガス」はオランダ語に由来し、これを日本に導入する際に「瓦斯」の当て字を考えたのが、津山藩医の宇田川榕菴です。それにちなんで、今回ガス灯が寄贈されることになりました。

ちょうど桜の季節だったこともあり、資料館のガス灯を見てから薬草の小径を通り、千光寺まで夜桜を見に行く方も多くいらっしやったようです。（表紙に日没後の風景を掲載しています。）

NEWS FILE

津山ロータリークラブより ガス灯・児童用パンフレットが寄贈されました



2月25日（土）、「美作の国つやま検定」の研修会が資料館で行われました。つやま検定は、津山商業高校商業クラブが主催して開催したご当地検定です。試験は3月10日（土）に商業高校で実施され、約50名の方が受験されました。

試験前に行われた研修会では、津山市観光振興課の小坂田裕造課長、津山郷土博物館の尾島治館長、そして資料館の下山館長が観光や歴史、洋学の話をし、参加された方は真剣な面持ちで取り組んでおられました。

津山商業高校に協力 つやま検定研修会実施

光後玉江墓所に 解説板が設置されました

4月15日（日）、企画展「幕末維新を駆け抜けた女医光後玉江」が終了しました。お借りしていた資料を返却するために興禅寺へお伺いしたところ、ご住職の芝原秀諦師より、嬉しいお話を教えていただきました。

何と、光後玉江の墓所に、美咲町の文化財保護委員会と教育委員会によって解説板が設置されたとのこと！早速お参りすると、墓所の入り口に立派な解説板が建てられていました。

企画展の会期中には地元美咲町の方も多く来館してくださいました。郷里で今も玉江を慕う人の多いことが、しみじみと感じられました。



▲美咲町錦織の光後玉江墓所

INFORMATION

平成24年度の催し物(予定)

企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「万病に挑む」 22 第67回文化講演会 講師：国立歴史民俗博物館 樋口雄彦 先生 22 友の会総会 (休館日：2・9・16・23日) 	4/21～ 万病に挑む 在村医たちの足跡を追って
5月	(休館日：1・2・7・8・14・21・28日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 10 友の会研修バス旅行 14 薬草説明会 (休館日：4・11・18・25日) 	～7/1
7月	<ul style="list-style-type: none"> 3～6 燻蒸作業にともなう臨時休館 企画展「地図で世界を旅しよう!!」 28 ヒンデローベン 絵付け体験教室 (休館日：2～6・9・17・18・23・30日) 	7/14～ 地図で世界を旅しよう
8月	<ul style="list-style-type: none"> 2 江戸時代の化学書からの実験 (休館日：6・13・20・27日) 	～9/23
9月	(休館日：3・10・18・19・24・25日)	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「植物に魅せられた二人 — シーボルトと牧野富太郎の植物標本 —」 薬草・ハーブ説明会 (休館日：1・9・10・15・22・29日) 	10/6～ 植物に魅せられた二人
11月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会史跡見学会 (休館日：5・6・12・19・24・26日) 	～12/2
12月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「くすりと人のあゆみ (仮)」 16 上廣倫理財団歴史文化フォーラム 「江戸時代作州人の生き方と学問」 山本博文 先生・岩下哲典 先生 (休館日：3・10・17・25～31日) 	12/9～ くすりと人のあゆみ(仮)
1月	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員による研究報告会 (休館日：1～4・7・15・16・21・28日) 	
2月	(休館日：4・12・13・18・25日)	
3月	(休館日：4・11・18・21・25日)	～3/17

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

参加者募集!!

洋学資料館の夏休み教室開催!

A親子でヒンデローペンの作品づくり

オランダの民族模様でバッグにひまわりの絵を描きます。

平成24年7月28日(土) 10:00～12:30

■対象：小学4～6年生と保護者 10組 20名

■材料代：1点作成 1800円・2点作成 3000円

B江戸時代の化学書からの実験

宇田川榕菴の化学書『舎密開宗』に掲載された実験を行います。

平成24年8月2日(土) 13:30～15:30

■対象：小学4～6年生(保護者も参加可) 20名

応募方法：往復はがきに、①氏名 ②住所 ③電話番号 ④学校名・学年 ⑤希望の教室(A・Bいずれか)を記入の上、津山洋学資料館までお送りください。
締め切り：7月20日(金)

《送付先》

〒708-0833

津山市西新町5

津山洋学資料館



◀ヒンデローペン作品例

ヒンデローペン 絵付け体験教室

オランダの民族模様で

バッグにひまわりの絵を描きます。

平成24年7月28日(土) 14:00～16:30

■対象：一般 ■参加費：1800円

電話で洋学資料館(23-3324)までお申し込みください(先着順)。

燻蒸作業にともなう臨時休館のお知らせ
7月3日(火)～6日(金) 休館

—職員の変更—

(異動) 学芸員 小島 徹・(着任) 学芸員 乾 康二

ご利用案内

■開館時間/9:00～17:00

(入館は16:30まで)

■休館日/月曜日(祝祭日の場合はその翌日)

祝祭日の翌日・年末年始(12月27日～1月4日)

■入館料/

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

* ()内は30名以上の団体料金です。
* 小学生・中学生は無料です。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



●交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分